

ヤマネ

Glirulus japonicus (Schinz)

齧歯目
RODENTIA
ヤマネ科
Gliridae

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 準

選定理由	確認例が少なく、全体として生息する自然林に対する人為干渉が進み、生息条件が劣化。個体数は減少しており、絶滅の危険性が極めて高い。
県内分布	由布・鶴見山域，九重山域，祖母・傾山域
分布域	本州 四国 九州(佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎)
生息環境	山地帯から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で、樹上で活動し、主に果実，種子を採食する。
現 状	標高800m付近の落葉広葉樹林帯に生息，夜行性のため確認例は少ない。県下では，樹洞などを利用して生息しているが，フクロウの育雛巢内などで捕食された個体が確認されている。
備 考	天然記念物，IUCN：希少種。日本固有属，日本固有種。日本哺乳類学会：危急

スミスネズミ

Eothenomys smithii (Thomas)

齧歯目
RODENTIA
ネズミ科
Muridae

カテゴリー

大分県
環境庁 掲載なし

選定理由	生息確認例が少なく、地域も限定されている。生息地の減少が懸念される。
県内分布	湯布院町，九重町，久住町，野津原町
分布域	本州(新潟・福島以南) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島) 隠岐島後
生息環境	山塊につながった低地から高山帯の森林に生息。植林地内にはあまり生息しない。湿潤な環境を好み，植物の緑葉部，種実のデンプンを採食する。
現 状	生息確認地が偏在しており，しかも，確認例があまり多くない状況である。個体数として安定しているのは由布岳山麓，標高700～900m付近。この生息地については，将来共に人為干渉は予想されないが，個体群保全のため選定した。
備 考	日本固有種。日本哺乳類学会：希少

ハタネズミ

Microtus montebelli
(Milne-Edwards)

齧歯目
RODENTIA
ネズミ科
Muridae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし

選定理由	1980年代から確認例が極端に少なくなっている。理由は不明だが個体数の減少が懸念される。
県内分布	県内全域
分布域	本州 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島) 佐渡島 能登島
生息環境	畑，水田の畦，河川敷など平野部に広く分布し，ときには高山帯にもみられる。個体数の変動が著しく，ときおり大発生し，農作物被害を起こすこともある。
現 状	1980ごろからトラッピング調査などによっても稀にしか確認できない状態である。
備 考	日本固有種。